

修了にあたって

2010年6月13日、60億kmの旅を終えた小惑星探査機「はやぶさ」の帰還という偉業に、日本国民が歓喜の声を上げました。そして、10月6日、鈴木章北海道大学名誉教授と根岸英一パデュー大学特別教授のノーベル化学賞受賞という快挙に、再び日本国中が沸き立ちました。2010年は、世界に日本の科学技術力の高さを示した1年と言っても過言ではありません。

しかし、一方で日本の国内総生産が初めて中華人民共和国を下まわるなど、急速に変化する世界情勢の中で経済大国としての日本の地位も変化しています。若者の就職難に示されるように、不安定な日本の経済状況によって、子どもたちの夢や希望が失われつつあります。こうしたことが、子どもたちの学習意欲を削ぎ、教育界にもマイナス影響を及ぼすことが懸念されています。激動する国際情勢・経済の中、子どもたちを取り巻く環境は絶えず変化しており、それに伴って、教育課題も複雑・多様化してきました。国際社会を生き抜く力を持った子どもを育てるために、今、教員には、諸課題への適切な対応能力の向上とともに、より高度な専門性と実践的な指導力のさらなる向上が求められています。

このような状況の中、私たち長期研修員7名は、教職員研修課（3名）、授業づくり支援課（3名）、人づくり支援課（1名）へ配属されました。私たちは、自己実践を振り返るとともに、「中央教育審議会答申」や「学習指導要領」、「『人づくり』2010プラン」等から、国や県の目指す教育の姿と教育現場の姿を比較し、課題を探りました。そして、所属する各課に関わる教育課題を把握し、個人ごとにテーマを絞り込み調査・研究を進め、ここに「平成22年度長期研修研修報告書」としてまとめることができました。本冊子が、読んでいただく方のお役に立てば幸いです。

この1年間、県総合教育センターという恵まれた環境の下で研修を積み重ねてきました。個人研究以外にも、各課で行われている研修への参加や、各界の有識者による講演の聴講によって、教育に関する見識を深め、視野を広げることができました。また、研究を進める中で、所長をはじめ、所員の方々よりいただいた助言は、私たちを支え、成長へと導いてくださいました。そして、互いの研究や教育観について語り合った仲間の存在は、何よりの励みであり、心の支えになりました。こうした出会いにより、教員としてだけでなく、人として大きく成長する機会をいただいたと実感しております。改めて感謝申し上げます。

私たちは、今後も研修に励み、教員としての資質向上に努めていきたいと思えます。そして、長期研修で学んだことを学校や地域で生かし、静岡県の教育の発展に寄与できるよう、一層の努力を重ねていきたいと思えます。

最後になりましたが、この貴重な研修の機会を与えてくださった静岡県教育委員会及び各教育関係機関に感謝するとともに、私たちの研究に御協力いただいた学校、専門機関及び所属校の教職員の方々に、心よりお礼を申し上げます。

平成23年3月

平成22年度長期研修員一同